

湘南日独協会 忘年パーティ

忘年パーティの参加者は年々増えて今年は70名になりました。リヒター夫妻、ケルン夫妻の参加もあって国際交流の場ともなりました。来年、湘南日独協会は創立5周年を迎えます。5周年目の年に、さらに充実した活動を進めていきたいものですね。



ドイツ語会話講師のシモーネ・ケルンさんのスピーチ。通訳は松野義明氏。



今回の忘年パーティでは発足間もない合唱団の皆さんによる合唱が初披露されました。ドイツフェアに向けて、これからの活躍が期待されます。なお、当日は松野美智子(Vn)・松木葉子(Fg)・渡辺久仁子(Pf)の皆さんによる三重奏も演奏されました。

湘南日独協会 2003 年度活動予定

2003 年は湘南日独協が会創立 5 周年を迎えます。

■ 1 月 25 日(土) 第 25 回例会 (定例総会) 13:30 ~

■ 2 月 22 日(土) 会員懇話会 18:00 ~

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2 F ローズルーム

■ 3 月 22 日(土)

演題 ドイツにおける環境問題への取り組み(仮題)

講師 織田正雄氏 (財団法人日独協会常務理事)

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2 F ロータスホール

■ 4 月 26 日(土) 会員懇話会 18:00 ~

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2 F ローズルーム

■ 5 月 24 日(土)

演題 未定

講師 未定

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2 F ロータスホール

■ 6 月 28 日(土) 会員懇話会 18:00 ~

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2 F ローズルーム

■ 8 月 2 日(土) or 3 日(日) 18:00 ~

湘南の夏を彩るビアイベント

ドイツフェア

会場 藤沢市民会館第2レセプションホール

出演 未定

会費 未定

■ 8 月 23 日(土) 会員懇話会 18:00 ~

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2 F ローズルーム

湘南日独協会会報 (Der Wind)

VOL 5 . NO. 1 . 通巻 25 . 発行 2003. 1. 25.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局 : 〒 251-0055 藤沢市南藤沢 8-9 中丸ビル 2F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

No. 25.

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会 第 25 回例会

講演会

「ジーメンスと 江ノ電の 100 年」

●講師からのメッセージ

江ノ電は昨年(2002)の 9 月 1 日に開業 100 周年を迎えました。開業当初は 4 両の車輛で藤沢～片瀬間の運転を行いましたが、この際の車輛のモーターやビューゲルなどの電装品はすべてドイツ・シーメンス社の製品でした。また、発電所の直流発電機や配電盤などの付帯施設もシーメンスから購入しています。その後、幾多の変遷を経ましたが、今尚人々に愛され親しまれる電車として走り続けている素顔の江ノ電を紹介したいと思います。

講師 代田良春氏 (元江ノ島電鉄取締役鉄道部長
・江ノ電社史編纂室長)

日時 1 月 25 日(土) 13:30 ~ 15:30

会場 ホテル法華クラブ藤沢 2 F

ロータスホール

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

※講演会終了後、同じ会場で定例総会を開催します。

2002 忘年パーティのこと

会員 林 邦之

入場が開会間際であった為、知人のテーブルにつけず、やむなく座った席が吉田常務理事と同じテーブルで、本欄執筆を依頼される不運を蒙ることとなった。しかし同席6人のうち3人がお土産抽選に当たったのみならず、宮下先生の手になる似顔絵をサイン入りで頂戴出来るなどの幸運のテーブルでもあった。先生は音楽にも詳しく、我が国の歌曲をドイツ語で歌う歌手の名を思い出せないでいた処、ヘフリガーであることをご指摘下さり、又ハイデルベルクの古城に住むという大酒のみの小人「ペルクオ」の歌が関西の某大学山岳部で歌われて物議を醸しているなど興味あるお話は尽きなかった。

リヒターさん、ケルンさんの久しぶりに聞く「なま」のドイツ語のあと、水谷さんの熱意で誕生した合唱は、先ず定番の「聖しこの夜」。本来ドイツ語で歌われるべきこの歌が、「エーデルワイス」の歌と同様、我が国では専ら英語で歌われることの多いのは不愉快なことであるが、当夜は当然ながらドイツ語で歌われたのは嬉しいことであった。狩野会員の指導で「樅の木」を全員原語で歌い、遠い彼の国の静かに過ごす雪のクリスマスの夜に想いを寄せるのであった。小沢久美子様ご指導、有り難うございました。

続いてファゴット、ヴァイオリン、ピアノによるトリオ演奏は、3人のバランスが見事であったのみならず熱気に満ちた演奏であった。メリーウイドウでリラックスしたあとアベ・マリアはシューベルトの曲を編曲(作曲家・中山育美による由)したもので、その絶妙さは例えて言えばメロディーに色彩がきらめくとも表現しようか。当夜最も注目を集めたものと思う。最後の「四季のポプリ」はなじみのある曲のメドレーで場内の緊張を一挙に解きほぐし華やかな演奏は終わりとなった。今後共、機会ある毎にこのような企画がつづくことを切望したい。 — 了 —

湘南とドイツ④

稲村ヶ崎の鎌倉海浜公園内にある

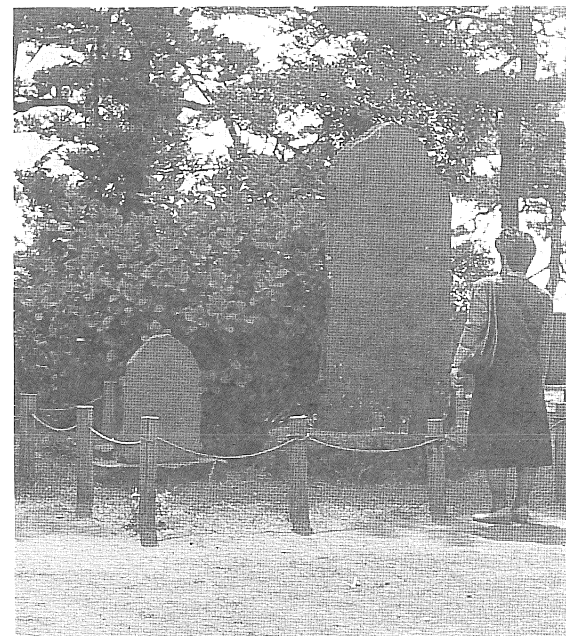
コッホ記念碑

会員 吉田克彦

過日、東京の(財)日独協会から機関誌「ディー・ブリュッケ」の表紙に掲載する写真として『ドイツに所縁のある当地の事蹟あるいは建造物など、各地の日独協会の「顔」あるいはシンボルとなっているもの』を提供するように依頼がありました。湘南の地にドイツに所縁のある事蹟や建造物といえど何があるのか些か困惑しました。

その折に、フト思い付いたのは稲村ヶ崎の公園内にあるドイツの細菌学者ローバート・コッホの記念碑でした。この記念碑については獨文学者・富士川英郎氏の名随筆がありますが、それによりますと65才になったコッホは1908年(明治41年)に妻を伴って世界漫遊の旅に出ました。その折、弟子の北里柴三郎の招きによって日本に立ち寄り、2ヶ月ばかり日本に滞在しています。6月12日、横浜に着いたコッホ夫妻は連日のように歓迎会や歌舞伎観劇で過ごし、小閑を得た6月21日に鎌倉にやってきました。大仏を見物して写真撮影をし、江ノ電で片瀬(現在は江ノ島駅)へ出て海岸を散歩した際にコッホ夫妻は「イタリアにもかかる景色はあらじ」と湘南の風光を嘆賞たといひます。その後、江の島を見物した夫妻は片瀬にある長与称吉の別邸で夕食の饗応を受けています。

同月27日、日光を訪れたコッホ夫妻は7月3日に再び鎌倉にやってきて、当時、由比ヶ浜にあった瀟洒な「海浜ホテル」に滞在しています。当時このホテルの Cock 長をしていたドイツ人が、かつてコッホがアメリカへ旅行したときの船のボーイ長でコッホにマラリア治療を受けた人であったという奇遇もありました。海浜ホテルに滞在した約1ヶ月間、コッホ夫



稲村ヶ崎のコッホ博士記念碑
(霊仙山から鎌倉海浜公園内に移設された)

妻は北里柴三郎とともにしばしば近くの霊仙山の頂上に登って、湘南の明媚な風景に親しみました。それは研究に学術会議にと多忙な生活の中でのほんの僅かな休息のひとつであり、日本滞在が生涯で最も楽しい思い出となったといわれています。

コッホは明治43年(1910)にドイツで没。大正元年(1912)9月、コッホの弟子、北里柴三郎はじめ十数人によって霊仙山頂にコッホ記念碑が建てられました。碑文には『…独国大医古弗先生、北里博士と偕に鎌倉に遊び、富嶽を望みて、これを快とす。…』とあります。しかし関東大震災で地盤が脆弱化したため、昭和58年(1983)鎌倉医師会の手で稲村ヶ崎の海浜公園内に移設されています。この際、難工事のため、ヘリコプターで記念碑を吊り上げて移設したと聞いています。

※詳しくは大佛次郎編「素顔の鎌倉」の中の富士川英郎著「コッホ記念碑」(実業之日本社刊)参照